

第2回 日本医学会連合 Rising Star リトリート 実施報告書

2023年4月20日

目次

1. 概要
2. 実施体制
3. 開催までの準備状況
4. 参加者によるレポート
5. アンケートとその結果
6. 総括
7. 会場風景（写真集）
8. 参考資料
9. リトリートプログラム（抜粋）
10. リトリート優秀賞 賞状

1. 概要

- ・ イベント名：第2回 日本医学会連合 Rising Star リトリート
- ・ テーマ：ホメオスタシスとその破綻
- ・ 会期：令和5年3月5日（日）～6日（月）
- ・ 会場：淡路夢舞台国際会議場
- ・ 参加者：58名（日本医学会連合基礎部会所属研究者 49名（内、若手企画委員5名）、臨床部会所属研究者 2名、特別講演講師 1名 シニア企画委員 6名）
- ・ 学術プログラム：特別講演 1件、口頭発表 25件、ポスター発表 26件

2. 実施体制

- ・ シニア企画委員 6名
飯野正光（基礎部会副会長）、野崎智義（日本寄生虫学会、企画委員長）、岡部繁男（日本解剖学会）、中山和久（日本生化学会）、藤田直也（日本癌学会）、高岡晃教（日本免疫学会）
- ・ 若手企画委員 5名
久保田義顕（日本解剖学会）、名黒功（日本生化学会）、大槻雄士（日本癌学会）、岩永史朗（日本寄生虫学会）、西條忍（日本免疫学会）
- ・ 事前登録、運営等の業務委託先：株式会社エー・イー企画

3. 開催までの準備状況

- 3-1. 2019年3月に開催された第1回日本医学会連合 Rising Star リトリートの成功を受けて、2020年度にも第1回と同様に1泊2日の合宿形式のリトリートを開催することを日本医学会連合基礎部会連絡会議で確認した。第2回の会議でも、各学会が自主的に推薦する若手研究者による研究発表会・交流会を実施するということを基本的な方針として踏襲することとした。
- 3-2. 第2回のリトリートを開催するため、第1回の3つの幹事学会（日本解剖学会、日本癌学会、日本寄生虫学会）に加えて新たに2学会（日本生化学会、日本免疫学会）を追加して、基礎部会5学会を幹事学会として、開催の準備に入った。
- 3-3. 2020年度の第2回開催に向けた準備の概要は以下の通りであった。
 - ・ 5つの幹事学会がそれぞれシニア企画委員1名と若手企画委員1名を選び、若手委員を中心として、基礎部会の全学会から広く若手を2-5名程度推薦依頼することとした。
 - ・ 推薦は各学会に依頼し、企画やプログラム編成は若手企画委員を中心に行うこととした。
 - ・ リトリートのテーマは、多くの学会が共有できるものとして「ホメオスタシスとその破綻」を継続することとした。
- 3-4. 日本医学会連合に事業計画を提案し、第一回と同規模の参加者によるリトリートを開催するための予算が確保された。
- 3-5. 会場の手配も終了し、リトリートのプログラムは準備されたが、新型コロナウイルスの流行により、2021年3月1-2日に予定されていたリトリートは中止された。

- 3-5. 2021年度にも本リトリート企画を日本医学会連合に事業として要望し、認められたが、新型コロナの流行が継続しており、プログラム編成は行わなかった。
- 3-6. 2022年度にも再度本リトリート企画を日本医学会連合に要望し、認められた。
- 3-7. 2022年9月に新型コロナ流行の一定の沈静化を踏まえて、リトリート企画委員のメール会議と日本医学会連合への意見紹介の上、第2回 日本医学会連合 Rising Star リトリートを開催することとした。参加形式は対面を基本方針として、オンラインまたはハイブリッドを感染拡大が起きた場合の代替措置とした。
- 3-8. その後、2022年9-11月の企画委員のメール会議により、以下のように決定された。
- ・ 会期：令和5年3月5日（日）～6日（月）。
 - ・ 会場：淡路夢舞台国際会議場。
 - ・ 当番学会：日本解剖学会、日本生化学会、日本癌学会、日本寄生虫学会、日本免疫学会。オブザーバー学会：日本消化器病学会。
 - ・ シニア企画委員 6名：飯野正光（基礎部会副会長）、野崎智義（日本寄生虫学会、企画委員長）、岡部繁男（日本解剖学会）、中山和久（日本生化学会）、藤田直也（日本癌学会）、高岡晃教（日本免疫学会）
 - ・ 若手企画委員 5名：久保田義顕（日本解剖学会）、名黒功（日本生化学会）、大槻雄士（日本癌学会）、岩永史朗（日本寄生虫学会）、西條忍（日本免疫学会）
 - ・ 事前登録、当日運営等の業務委託先：エー・イー企画
 - ・ 参加者は日本医学会連合基礎部会関連学会所属の若手研究者約50名（教授から大学院生まで、身分・役職は問わず、年齢は概ね45歳まで）。その分野の新進気鋭の研究者であることを条件とした。クローズドの会とする。
 - ・ 発表はオーラル、ポスター発表。参加者全員に発表の機会を与える。特別講演一席。
 - ・ 特別講演は企画委員長の推薦により理研宮脇敦史博士に依頼する。
 - ・ 参加者が交流できる場と時間を設定する。
- 3-9. 2022年11月10日に、日本医学会連合門田会長、飯野副会長より、基礎部会加盟各学会の代表理事・理事長・会長に対して、15の基礎部会加盟各学会への若手の推薦（幹事学会から3-4名、それ以外から1-2名）依頼が行われた（参考資料9-1）。さらに、リトリートのテーマとの親和性の高い臨床系学会からのオブザーバー参加として日本消化器病学会へも推薦依頼を行った。推薦締切は12月9日とした（実際は12月23日まで最後の2つの学会から推薦を受け付けた）。
- 3-10. 2023年1月18日に第1回企画会議をオンラインで開催した。テーマ、プログラム、会場のフロアプラン、特別講演、優秀賞、予算、開催形態、感染対策、今後の準備などに関して決定した。
- ・ 優秀発表者に対する顕彰を行うこととし、講演とポスター発表それぞれについて3名を参加者の投票により選出して、「日本医学会連合 Rising Star リトリート優秀賞」の賞状を授与することとした。
 - ・ 参加者から本リトリートに参加しての感想を得るため、アンケートを実施することとし

た。(参考資料9-3)

- ・ 参加者にそれぞれの立場で本リトリートの感想を報告してもらうために、日本寄生虫学会、日本免疫学会、日本消化器病学会からの参加者からそれぞれ1名を選出し、見市文香、小林哲郎、筋野智久氏にレポートを作成していただくこととした(資料8)。
- 3-11. 抄録登録、プログラム製本などは業務委託したエー・イー企画が実施した。抄録の提出締め切りは2月3日、プログラム編成の締め切りは2月10日とした。
- 3-12. 当日のプログラム案(資料10、抜粋)、参加・発表案内(参考資料9-2)を2月12日に参加者に対して通知した。
- 3-13. 2023年2月16日に第2回 日本医学会連合 Rising Star リトリートの第2回企画会議をオンラインで開催した。全ての前回の未確認事項を決定した。

4. 参加者によるレポート

第2回日本医学会連合リトリート印象記

長崎大学熱帯医学研究所共同研究室
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科原虫生化学分野
見市文香

私は寄生虫学会の推薦で第2回日本医学会連合リトリートに参加させていただきました。2020年3月に開催される予定であった幻の第2回日本医学会連合リトリート、3年後に復活&開催していただけたこと、そして参加資格を維持していただき参加できたこと、とても嬉しく思います。会を企画・運営していただいた先生方に感謝いたします。今回のリトリートは直前にプログラムをいただくまで、どんな規模なのか、どのような方が参加されるのか、まったく把握出来なかった分、参加してからの衝撃がとても強いリトリートだったという印象です。

各学会から推薦された若手の研究者が集まり2日間を過ごす、セッションはもちろん、食事の席でも発表と発表の合間でも、自身の研究の話、分野の研究の話、さらには分野を超えた、例えば数学を専門とする方の研究の話で生き生きとする、とても楽しく密度の濃い2日間でした。場所が淡路島で、ホテルと会場が一体型であったことが、より強く結束力を高めたのではないかと思います。個人的に一番楽しかった時間は、ポスター発表の方々のショーのプレゼンテーションでした。短時間でしたが、だからこそ起承転結が明確で、全員の口頭発表を聞きたかった、と参加者全員が思ったと思います。なかなか参加出来ないからこそ、全員が口頭発表、それに加えてポスター掲示をするチャンスをいただけると、より良いのではないかと思います。

この日本医学会連合リトリートが、毎年続けて行われることを願っています。それぞれの学会において広く周知されることで、若手の研究者が、今年こそ！だめでも来年こそ推薦してもらって参加したい！と目標になればいいと思います。念願かなって参加して、専門が異なる同年代の人達から刺激を受け、自身を磨いていく、とても良い経験になります。私自身、専門が違うため滅多に会うことが無かった大学の同級生に会うことが出来て嬉しかっただけでなく、自身を見つめ直し、これからの方針を立てる良いきっかけとなりました。

第2回日本医学会連合リトリート印象記

理化学研究所 自然免疫システム研究チーム

小林哲郎

私は免疫学会に推薦していただき第2回日本医学会連合リトリートに参加させていただきました。まずは素晴らしいリトリートを企画運営された先生方にこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。正直に申しますと医学会連合の存在に馴染みがなく、どのような会であるのか全く予想できずに参加いたしました。想像を遙かに超えた素晴らしく貴重な時間を過ごすことができ、今後の研究者の人生の糧となる多くのことを学ばせていただいた実りあるリトリートでした。特に今回のリトリートで感じたこと、学んだ3つのことに関して以下に述べさせていただきます。

まず第1に各学会から優秀な若手の研究者が集まり2日間を過ごす中で大変刺激を受けました。研究領域の異なる発表であってもどのような目的でなにを目指し研究を行っているかを聞き、それぞれの研究者の研究に対する情熱を直に感じ、私自身も多くの人の心を動かすことができる研究をしなければならないと気持ちを新たにしました。素晴らしい研究は分野を越えてもその魅力が伝わるものであり、より普遍的な現象につながる研究をするべきだと改めて実感しました。またバックグラウンドの異なる様々な研究者の方と食事の席などでお話しする中で研究スタイルや研究生活、学生指導の苦労話を聞いたことも貴重な経験でした。

2つ目はプレゼン力の大切さを学んだことです。私は12分間のオーラルの発表を行いました。異分野の研究者の方々にわかりやすく研究の魅力を伝えることは容易ではありませんでした。研究の意義とその波及効果を伝えるためになるべくわかりやすいデータを示しつつも、かつ内容の濃いプレゼンを心がけました。幸い私の発表は優秀賞に選んでいただき、研究の魅力を皆様にも少しでも伝えることができたことと安心いたしました。また他の2名の優秀賞を授賞された方の発表は本当に素晴らしいものでした。もちろんデータや研究の内容のレベルの高い方は他にもたくさんいらっしゃいましたが、彼らのプレゼンは決して原稿を読むようなものではなく、どちらかというとかジュアルなものでしたが、むしろそれぞれの個性が出ていて今でも心に残る印象深いものでした。また特別講演でいらしていた宮脇先生のご発表も哲学的な示唆に富んだ先生の独創性が体現されたものであり、自分オリジナルなプレゼンをする大切さを実感しました。

最後に3つ目は分野を越えた研究者同士のつながりができたことです。研究は偶発的に訪れる出会いや機会から生まれた知の集合体であると考えます。研究の種が偶然の出会いから生まれることは多々あり、私自身も学会や研究会で出会った人などからインスピレーションを受け、一緒に仕事をするようになったことが少なくありません。実際に今回も寄生虫学会の方、生化学学会の方の2名と今後コラボレーションの可能性を話すことができました。お二方とも普段接することのない領域の研究者であり、分野の垣根を越えたこのようリトリートでこそできたご縁であります。この異分野融合の想定外の出会いによって新しい研究領域を創っていくことができるか今から楽しみでなりません。

第2回日本医学会連合 Rising Star リトリート参加記

日本消化器病学会推薦

慶應義塾大学 内視鏡センター 筋野智久

2023年3月に開催された第二回日本医学会連合 Rising Star リトリートに参加させていただきました。日本医学会連合は一般社団法人であり、医学会におけるアカデミアを追求するために設立された基礎系、臨床系の医学会の集まりであり、今回の企画も若手の横のつながりの強化、サイエンスの向上目的で開催されました。

私自身は消化器病学会（臨床系）からの参加でしたが、多くの自分とは全く異なるバックグラウンド、研究領域を持つ研究者が一堂に集まり、人間関係の構築を対面で行えたというのはとても貴重な財産です。基礎、臨床と別れているものの、サイエンスという観点からすると同じツールを使い、真理を探究するという姿勢に違いはなく、そのような側面から見るとみなさんの研究に対する苦労 話などを伺い共感する面も多く、これからもっとサイエンスを楽しもうとおもいました。

特別講演は世界的なトップクラスの研究者をお招きするとあり、今回も宮脇敦史先生に Life and Light という講演で教育講演をいただきました。今私たちが使っている科学の基盤を作られ、さらにこれからもっと実用化に向けて情熱を傾けている研究の最前線に触れ本当に感銘を受けました。

さらに今回淡路島で行われたこともあり、素晴らしい夕食、そのあととどまることのない懇親会、意見交換、さらに翌日もポスターセッションに合わせた討議、オーラルでの討論など、これだけ日常を忘れてサイエンスに集中できたのもとても貴重な経験です。個人的には寄生虫、ウイルス学、腫瘍学といった分野には興味を持ちましたし、脳内の細胞、認知機能、さらには癌の発生についてなど未知すぎてただただ感銘を受けているうちに終わったしまったものもあります。

とても刺激的な会で毎年参加できないのが残念でもあり、後輩たちがもし参加できるのであれば是非参加した方がよいという会になっていたと思います。逆にいうと、そのような会に導いた準備委員の先生方には感謝しかありません。

今後ますます大きな会となり様々な学会で「日本医学会連合リトリートの2期です」という自己紹介が当たり前となり、参加希望者が殺到して参加することが名誉となる研究会となるとおもいます。

今回は参加の機会を与えていただき本当にありがとうございました。

5. アンケートとその結果

- ・ 開催期間（1泊2日）、開催地、開催時期に対する評価は概ね良好であった。開催時期に関しては年度末でない方が良いとの意見が複数見られた。
- ・ 口頭発表のセッション分け、口頭・ポスター発表の演題数のバランス、口頭・ポスター発表の配分時間に対する評価も良好であった。
- ・ 質疑の時間が短いとの意見が参加者の約10%に見られた。今後、懇親会等を含めてより深い議論ができる環境の設定が今後考慮できると理想的である。
- ・ 食事の形式、懇親会内容に関する評価も良好であった。
- ・ 異分野交流についてもほとんどの参加者が好印象を持った。参加者が多く、80%近くの参加者が3名以上の他学会からの参加者と共同研究をしてみたいという感想を持っていた。異分野交流に効果的な会であるとの意見が多かった。一方で20%近くの参加者はより広い範囲での交流を望んでいた。今後オブザーバー参加を推薦依頼する臨床系・社会医学系学会の数、参加者数を考慮する必要があるかもしれない。
- ・ 類似の異分野交流リトリートに参加した経験のない参加者が全体の7割近くいた。本リトリートは異分野交流に有効な手段であることが再確認された。
- ・ 今回のリトリートに参加する以前のリトリートの認知度が参加者の20%程度であった。今後継続的に開催することにより、認知度の向上が見込まれる一方で、基礎部会所属学会への積極的な広報などが求められる。

第2回日本医学会連合 Rising Star リトリート アンケート

49名回答

Q1	今回のリトリートに参加する以前に、リトリートについてご存知でしたか？	
	ア 知っていた	9
	イ 知らなかった	40
Q2	3月上旬の開催について	
	ア とても良かった	13
	イ 良かった	19
	ウ 可もなく不可もなく	15
	エ あまり良くなかった	2
	オ 良くなかった	0

*ご意見があればお聞かせください

年度末なので、5月頃などの方が準備に時間を割けたと思います。

もっと早い時期が良い。年度末ではない方が良い。

Q3	開催期間(1泊2日)について	
	ア ちょうどよい	46
	イ 長過ぎる	1
	ウ 短過ぎる	2
Q4	開催場所(淡路島)について	
	ア とても良かった	26
	イ 良かった	16
	ウ 可もなく不可もなく	7
	エ あまり良くなかった	0
	オ 良くなかった	0
	* ご意見があればお聞かせください	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立地が良いが、プログラムが続くため、外を見ることができませんでした。初日の午後に休憩時間があるとうれしいです。 ・ 若干遠かったですが、とてもすばらしい会場でした。 ・ 私は比較的近い場所でしたので「良かった」です。ただ、遠方からの人は淡路島にアクセスしにくかったかもしれません。ですが、「リトリート」の場としては良いと思いました。 ・ せっかくなので観光や寿司を食べに行く時間が欲しかったです。アクセスが悪いが自由時間があると良い(2日目は午前で終わるとか) 	
Q5	・ 口頭発表とポスター発表の演題数のバランスについて	
	ア 口頭発表を多くしてほしい	4
	イ 丁度良い	44
	ウ ポスター発表を多くしてほしい	1
Q6	口頭発表のセッション分けについて	
	ア とても良かった	19
	イ 良かった	24
	ウ 可もなく不可もなく	5
	エ あまり良くなかった	1
	オ 良くなかった	0
Q7	口頭発表の時間について	

ア	ちょうどよい	42
イ	長過ぎる	1
ウ	短過ぎる	5

質疑の時間が短めと感じました。

口頭発表の時間そのものはちょうど良いと思いますが、ディスカッションの時間がもう少しあった方が良いと思います。

個人的には丁度良い時間だと思いますが、大分時間が押していたようなので。（「短すぎる」を選択された方）

Q8 ポスター発表の時間について

ア	ちょうどよい	39
イ	長過ぎる	2
ウ	短過ぎる	7

Q9 食事の形式は着席でしたが、着席・立食のどちらがリトリートに適すると思いますか？

ア	着席	24
イ	立食	8
ウ	どちらでもよい	14

- ・ テーブルにパーテーションがなかったのが良かった。
- ・ 盛り上がりました。その後の懇親会があったので着席パーティーは良かったです。
- ・ ポスターセッション等動くことが多いので食事は落ち着いて頂きたいと思います。今回はとても良かったです。
- ・ 立食の方が話はずむと思いますが、話すグループが固定されてしまうと思います。着席の方がむしろ普段しゃべらない人としゃべれて良かったです。
- ・ プレミアム感/特別感があって良かった。

Q10 懇親会の内容や時間、お酒の量などはいかがでしたか？

ア	とても良かった	21
イ	良かった	15
ウ	可もなく不可もなく	10
エ	あまり良くなかった	0
オ	良くなかった	0

* ご意見があればお聞かせください

～24 時までの懇親会は大丈夫なのかと思いましたが、あっという間に時

間が過ぎ、皆様の熱気で楽しかったです。
 色々な方々と交流できてとても良い機会でした。
 お酒の量が多すぎた

- Q11 異分野交流について
- | | | |
|---|-----------|----|
| ア | とても良かった | 29 |
| イ | 良かった | 16 |
| ウ | 可もなく不可もなく | 2 |
| エ | あまり良くなかった | 0 |
| オ | 良くなかった | 0 |
- Q12 所属学会以外の参加者で共同研究をしてみたいと思った参加者の人数は？
- | | | |
|---|------|----|
| ア | 1人 | 6 |
| イ | 2人 | 17 |
| ウ | 3人 | 13 |
| エ | 4人以上 | 7 |
| オ | 0人 | 3 |
- Q13 今回のリトリートは医学会連合の基礎系の学会と臨床系1学会のみの参加でしたが、異分野交流を行う範囲としてこれが適切でしょうか？
- | | | |
|---|------|----|
| ア | 適切 | 38 |
| イ | 狭すぎる | 8 |
| ウ | 広すぎる | 1 |
- うち1票「やや狭い」
- Q14 類似の異分野交流リトリートについて
- | | | |
|---|-----------|----|
| ア | 参加したことがある | 16 |
| イ | 参加したことがない | 31 |
- Q15 特別講演の招待演者のご希望をご回答ください
- ・ 次のメインテーマに沿った演者
 - ・ ご自身の研究人生で大変だったこと、それをどうやって乗り越えたのかお話しただけだと、刺激になります。今回の宮脇先生の御講演はとても感銘を受けました。
 - ・ 山中伸弥先生(2票)

Q16 特別講演以外にこのリトリートで実施してほしい企画等があればご記入ください

テクニカルセミナー

健康における共生とその破綻←テーマの提案

スポーツイベント

Q17 第一回と第二回の両方にご参加された方にお聞きします。第一回と比較して第二回の良い点・悪い点を自由にご記入ください。

会場、食事など2回目が良かった。

第2回は若い方が少なかった

Q18 ご感想を自由にご記入ください。

大変貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。

大変勉強になる会でした。参加できてとても良かったです。

普段は聞けない他分野の先生方のお話をたくさん聞いたので、大変有意義な時間でした。

とても新鮮でリフレッシュしました。自分も研究をがんばろうと思いました。

モチベーションの上がる議論や発表に参加できる機会を設けて頂き感謝いたします。

初めての参加で audience の背景が分からなかったため、プレゼンを鳥の目線ですべきだと思った。いつもの異なる着眼点や質問を頂けて新鮮だったし、勉強になった。このリトリートに参加できて、とても光栄でした。

このリトリートとは他に、ジュニア研究者(学位取得後5年以内位)の交流会があるとモチベーションになると思います(Rising Starのタマゴ達の交流)。場所はすばらしく、参加してとても為になりました。

日中(昼頃)に1-2時間自由時間があるといいと思います。

ありがとうございました。オーガナイズ大変お疲れ様でした。

とても勉強になりました。

発表内容に比較的かたよりがあるような気がする。幹事学会との関連？

また参加したい

ありがとうございました。楽しかったです。

最先端の話をわかりやすく伝えようとしてくれたので、理解しやすかったです。

講演後の質疑応答時間がもう少し長いと良い。

6. 総括

第2回日本医学会連合 Rising Star リトリートは、4年前の2019年3月に実施された第1回の成功を受けて、企画され、2023年3月に成功裡に開催された。本企画は基礎部会に所属する学会の若手研究者の支援、特に分野間の連携と研究ネットワーク構築の支援をも主な目的として実施された。新型コロナウイルスのパンデミックにより3年間の延期、中止を余儀なくされたが、今回感染がやや収束した中で、感染対策を行なった上での開催となった。多くの参加者にとって久方ぶりの対面での研究成果発表と異分野交流の場となった。

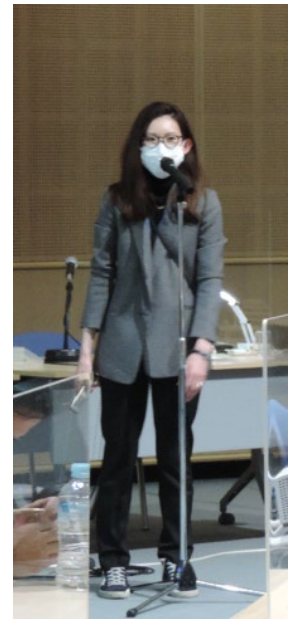
各学会から推薦された文字通り Rising Star 達の熱い発表、質疑応答、深夜まで続く熱心な議論を目の当たりにして、本リトリートの目的である、各分野の一流の若手研究者の闊達な交流を促進し、分野を超えた共同研究や研究ネットワークを構築して欲しいという企画委員会の意図は十分に達成されたと考えられた。3学会から寄稿されたリトリート印象記でも、本企画が参加者に様々な刺激（衝撃）を与え、学びと交流の場を与えていると評価されている。リトリートに参加できなかった他の学会員にも、今後のリトリートへの参加を促すなど、本リトリートのインパクトが広く波及することが期待された。

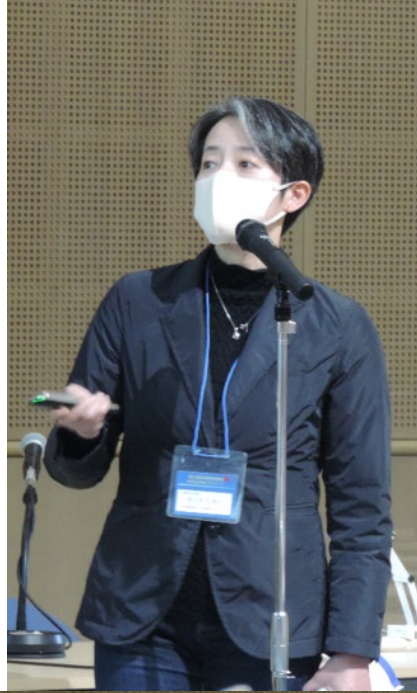
本リトリートは2019年の第1回では基礎部会に所属する3つの学会が、第2回では5つの学会が幹事・当番学会としてシニア・若手企画委員を出し、若手委員が中心となってプログラム編成を行なった。若手がプログラムを作り、司会・運営などを中心となって行うことで、プログラムの全体を通じてリトリートに若手研究者達の積極性・自主性、それに参加者の強い一体感を与えた。次年度以降開催が予定される第3回では、幹事学会を入れ替えながら企画、運営されることが予定されているが、新しい企画委員会が、魅力的なテーマを設定して、異分野の研究者間の共同研究をこれまでも増して促進、拡大できる仕組みが取り入れられると良い。今後アンケートの意見を参考にしながら、開催期間、時期、場所、テーマ、形式などを、目的と必要に応じて変更しつつ、更に充実した内容で、共同研究などの将来性、発展性を持った Rising Star リトリートが継続的に開催されることを期待している。

最後に、特別講演を快諾され、会の最後まで熱心に参加者と議論を交わして下さった宮脇敦史博士には改めて感謝を申し上げたい。

7. 会場風景（写真集）

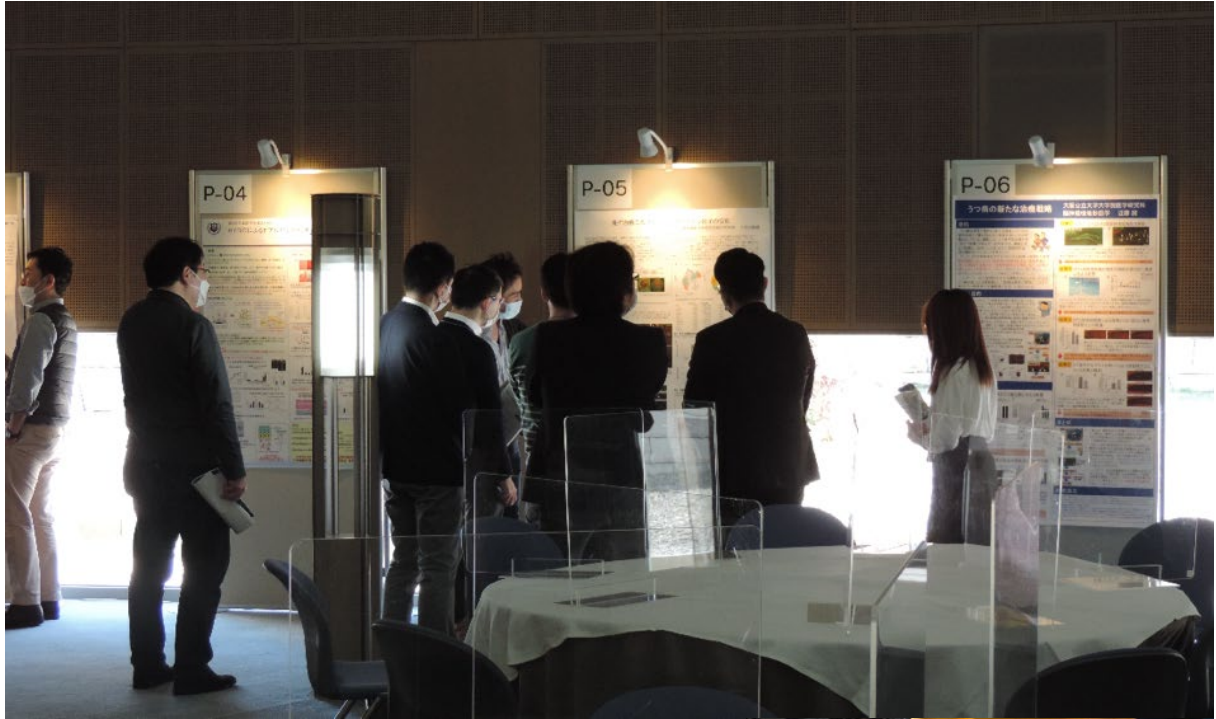
















8. 参考資料

8-1. 各学会への参加者推薦依頼文

2022年11月10日

一般社団法人 日本医学会連合 基礎部会
加盟学会 代表理事・理事長・会長 殿

一般社団法人 日本医学会連合
会長 門田 守人
副会長 飯野 正光

日頃より日本医学会連合の活動にご協力いただき感謝申し上げます。

日本医学会連合では、基礎部会加盟学会を支える若手研究者の育成とキャリア形成をサポートするため、「日本医学会連合 Rising Star リトリート」を実施しております。2019年3月3-4日に開催された第1回リトリートでは、基礎部会関連学会で活躍している若手会員50名を招待し、各自の研究発表を通じ、研究者間の交流・連携・横断的研究活動を促進することができました。これに続き第2回リトリートを2020年3月1-2日に開催する予定で参加者を確定して準備を進めておりましたが、新型コロナウイルスのパンデミックのため残念ながら中止いたしました。その後、さらに2年に亘り本リトリートの開催を延期してきましたが、この度2023年3月5-6日に第2回リトリートを感染対策に十分注意の上、開催することになりました。つきましては、下記要領をご覧ください、12月9日（金）までに、リトリートに参加いただける新進気鋭の若手研究者2名を貴学会よりご推薦くださるようお願いいたします。

記

日本医学会連合 Rising Star リトリート

1. 日時 2023年3月5日（日）（13時開始予定）～6日（月）（16時頃解散予定）
2. 場所 淡路夢舞台
（兵庫県淡路市夢舞台1番地 <http://www.yumebutai.co.jp>）
3. リトリートテーマ 「ホメオスタシスとその破綻」
4. 当番学会：日本解剖学会、日本癌学会、日本寄生虫学会、日本生化学会、日本免疫学会、日本消化器学会（オブザーバー）
5. 参加者：日本医学会連合基礎部会関連学会所属の若手研究者約50名（教授から大学院生まで、身分・役職は問いませんが、年齢は概ね45歳まで）。その分野の新進気鋭の研究者であること。
6. 研究発表：オーラル発表およびポスター発表（参加者の発表テーマ等を元にどちらかの発表形式を依頼する予定）
7. 特別講演：宮脇 敦史 先生（理研）

貴学会への依頼事項

1. 2022年12月9日(金)までに本リトリートの趣旨に沿った研究発表が可能な若手候補者2名のお名前、所属、役職、連絡先(メールアドレス、電話番号)、主たる研究テーマを日本医学会連合事務局までご連絡ください。候補者は中止された2020年のリトリートに参加を予定されていた方を優先していただいても結構ですが、ご本人、又は貴学会の判断で交代していただいても構いません。
2. 候補者の方が上記日程で両日共にオンラインでご参加いただけることを事前にご確認ください。
3. 旅費と宿泊費(ウエスティンホテル淡路・個室)は日本医学会連合で負担いたします。
4. 候補者選出にあたっては、ジェンダーおよび地域バランス等、参加者の多様性にもご配慮ください。
5. ご参考までに、第1回日本医学会連合リトリート実施報告書、2020年第2回の開催予定時に登録されていた貴学会からの参加者の名簿、および日本医学会連合加盟学会リストを添付いたします。

以上

なお、本件についてのお問い合わせは、以下の連絡先までお願いいたします。

一般社団法人 日本医学会連合 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目28-8 日内会館8F

TEL: 03-6240-0405 FAX: 03-6240-0406

Email: office@jmsf.or.jp

返信用書式

候補者 No. 1

氏名:

所属(研究室名まで):

役職:

メールアドレス:

電話番号:

主たる研究テーマ(2行程度):

候補者 No. 2

氏名:

所属(研究室名まで):

役職:

メールアドレス：

電話番号：

主たる研究テーマ（2行程度）：

8-2. 参加者への案内（電子メール）

件名：医学会連合リトリート ご参加される皆さまへ

<以下本文>

第2回日本医学会連合「Rising Star」リトリートにご参加の皆様：

前略 第2回日本医学会連合「Rising Star」リトリートにご協力いただきありがとうございます。

会期が近づいてまいりましたので、発表内容と当日の服装についてご案内いたします。

本企画には、若手研究者が所属学会を超えて交流する機会を提供し、互いに刺激し合うことにより基礎医学全般の活性化に繋げていきたいという願いがあります。

また、参加者のネットワークが広がることにより、所属学会以外の研究者との共同研究なども積極的に推進してもらいたいと考えています。

上記の目的のため、専門外の人が見ても研究の意義や結果が分かるように発表内容を準備いただきますようお願いいたします。

現在の研究の困難さや今後の課題なども場合によっては加えていただければ、全く違う分野の研究者から良いアドバイスが得られるかも知れません。

参加者のほとんどは専門外の研究者ですので、難解な専門用語や略語はわかりやすく説明するか、可能であれば避けて下さい。

また、オーラル、ポスター共に発表言語は日本語でお願いします。

専門外の人に研究の意義や結果を説明するのは意外と骨が折れるかもしれませんが、自身の研究を原点から見直すチャンスになるのではないかと思います。

また、プログラムが確定しましたのでご案内いたします。

下記よりダウンロードしていただけますようお願いいたします。

<https://www.aeplan.co.jp/retreat2/program.pdf>

当日の服装については、スマートカジュアルまたはカジュアルでお越してください。ネクタイは不要です。

参加者は若手ばかりですので、肩ひじ張らず最新の研究成果を楽しく議論できればと思っております。

それでは会場にてお会いできることを楽しみにしています。

草々

第2回日本医学会連合「Rising Star」リトリート
企画委員一同

8-3. アンケート用紙

第二回日本医学会連合 Rising Star リトリート：アンケート

この度は第二回日本医学会連合 Rising Star リトリートにご参加頂きありがとうございました。次回以降のリトリート企画の参考とするために皆様のご意見を頂きたいと思っております。つきましては以下のアンケートにお答え頂き、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。

Q1: 今回のリトリートに参加する以前に、リトリートについてご存知でしたか？

(ア) 知っていた (イ) 知らなかった

Q2: 3月上旬の開催について

(ア) とても良かった (イ) 良かった (ウ) 可もなく不可もなく

(エ) あまり良くなかった (オ) 良くなかった

ご意見があればお聞かせください。

Q3: 開催期間（1泊2日）について

(ア) ちょうどよい (イ) 長過ぎる (ウ) 短過ぎる

Q4: 開催場所（淡路島）について

(ア) とても良かった (イ) 良かった (ウ) 可もなく不可もなく

(エ) あまり良くなかった (オ) 良くなかった

ご意見があればお聞かせください。

Q5: 口頭発表とポスター発表の演題数のバランスについて

(ア) 口頭発表を多くしてほしい (イ) 丁度良い (ウ) ポスター発表を多くしてほしい

Q6: 口頭発表のセッション分けについて

(ア) とても良かった (イ) 良かった (ウ) 可もなく不可もなく
(エ) あまり良くなかった (オ) 良くなかった

Q7: 口頭発表の時間について

(ア) ちょうどよい (イ) 長過ぎる (ウ) 短過ぎる

Q8: ポスター発表の時間について

(ア) ちょうどよい (イ) 長過ぎる (ウ) 短過ぎる

Q9: 食事の形式は着席でしたが、着席・立食のどちらがリトリートに適すると思いますか？

(ア) 着席 (イ) 立食 (ウ) どちらでもよい

ご意見があればお聞かせください。

Q10: 懇親会の内容や時間、お酒の量などはいかがでしたか？

(ア) とても良かった (イ) 良かった (ウ) 可もなく不可もなく

(エ) あまり良くなかった (オ) 良くなかった

ご意見があればお聞かせください。

Q11: 異分野交流について

(ア) とても良かった (イ) 良かった (ウ) 可もなく不可もなく

(エ) あまり良くなかった (オ) 良くなかった

Q12: 所属学会以外の参加者で共同研究をしてみたいと思った参加者の人数は？

(ア) 1人 (イ) 2人 (ウ) 3人 (エ) 4人以上 (オ) 0人

Q13: 今回のリトリートは医学会連合の基礎系の学会と臨床系 1 学会のみの参加でしたが、異分野交流を行う範囲としてこれが適切でしょうか？

(ア) 適切 (イ) 狭すぎる (ウ) 広すぎる

Q14: 類似の異分野交流リトリートについて

(ア) 参加したことがある (イ) 参加したことがない

Q15: 特別講演の招待演者のご希望をご回答ください

Q16: 特別講演以外にこのリトリートで実施してほしい企画等があればご記入ください

Q17 第一回と第二回の両方にご参加された方にお聞きします。第一回と比較して第二回の良

いい点・悪い点を自由にご記入ください。

Q18: ご感想を自由にご記入ください

8-4. 投票用紙

第2回日本医学会連合 Rising Star リトリート 優秀賞投票用紙

優秀な演題を選出し、演題番号をご記入ください。

オーラルは1日目の発表から2題、2日目の発表から3題お選びください。

ポスターは5題お選びください。

提出日時: <オーラル 3/5 発表分>3月5日 16:30-16:40

<オーラル 3/6 発表分、ポスター>3月6日 15:30~15:45

提出場所: 受付(会場前)

【お願い】

閉会式で受賞者を表彰いたします。迅速に開票・集計して受賞者を決定できますよう、提出日時にご協力くださいますようお願い申し上げます。

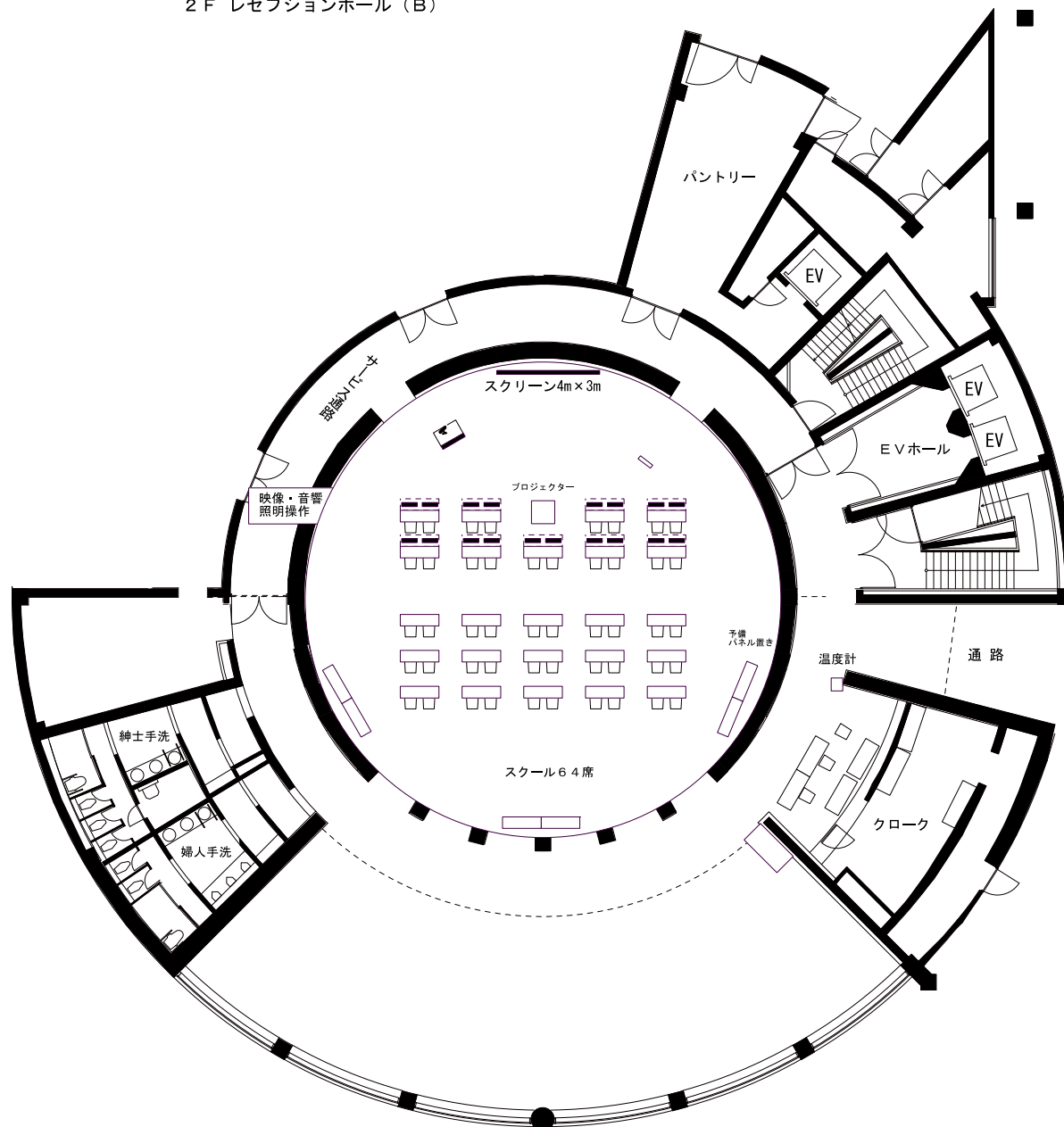
ポスター	① P-
	② P-
	③ P-
	④ P-
	⑤ P-
オーラル (3月6日発表)	① 0 -
	② 0 -
	③ 0 -

(切り取り)

オーラル (3月5日発表)	① 0 -
	② 0 -

8-5. 会場フロアプラン

2F レセプションホール (B)



9. リトリートプログラム（抜粋）



第2回 日本医学会連合
Rising Startリポート

—— ホメオスタシスとその破綻 ——
抄録集

会期 | 2023年 3月5日(日)~6日(月)

会場 | 淡路夢舞台国際会議場
淡路市夢舞台1番地

【主催】 一般社団法人日本医学会連合



プログラム 3月5日(日)

13:30-13:40	開会式 / 司会：名黒 功
13:40-15:00	オーラル「スピカ」 / (座長) 西城 忍 (行徳大学)
O1-1	麻疹ウイルスによる致死性脳炎の発症メカニズム
13:40	白銀 勇太 (九州大学大学院医学研究科ウイルス学・日本ウイルス学会)
O1-2	Regulation of B cell immunity during malaria infection
13:45	LEE Michelle Sue Jann (東京大学医学部研究所・マalaria免疫学分野 / 日本寄生虫学会)
O1-3	含硫アミノ酸によって制御される「赤痢アメーバ」寄生適応機構
14:10	見市 文香 (筑波大学・放射線医学研究所・共同研究室 / 日本寄生虫学会)
O1-4	COVID-19 mRNAワクチンでなぜオミクロン中和抗体が作られるのか
14:25	井上 毅 (大阪大学 免疫学フロンティア研究センター・分化制御研究室 / 日本免疫学会)
O1-5	自然リンパ球による生体バリア「恒常性維持機構
14:40	小林 哲郎 (理化学研究所 生命医科学研究センター 自然免疫システム研究チーム・日本免疫学会)
15:00-15:10	コーヒーブレーク
15:10-16:30	オーラル「ミルファク」 / (座長) 大槻 雄士 (徳田医科大学)
O2-1	レドックス制御に基づく小胞体ホメオスタシスの理解
15:10	潮田 亮 (京都産業大学生命科学部 / 日本生化学会)
O2-2	Wntシグナル経路は細胞結合機を愛容さ、ひまん性浸潤がん細胞を産生する
15:25	昆 俊亮 (東京理科大学・生命医科学研究科がん生化学分野 / 日本癌学会)
O2-3	モデル化明らかにする小児・AYA世代の骨軟部肉腫の病態と治療応用
15:40	田中 美和 (公益財団法人がん研究協会がん研究所がんエンゲージメントプロジェクト / 日本癌学会)
O2-4	間質細胞との細胞間相互作用による免疫系の進展機構の解析
15:55	粕 雄一朗 (神戸大学大学院医学研究科病理生理学講座免疫学分野 / 日本病理学会)
O2-5	シスPD1/CD80結合によるT細胞活性化調節メカニズム
16:10	杉浦 大祐 (東京大学・定量生命科学研究所・分子免疫学研究室 / 日本免疫学会)
16:30-16:40	コーヒーブレーク
※オーラルII, IIIより優秀演題を選出、投票	
16:40-17:30	特別講演 / (座長) 野崎 智義 (東京大学)
PL	米と生命の相互作用
16:40	宮脇 敦史 (理化学研究所 脳神経科学研究センター・光量子工学研究センター)
18:00-20:00	夕食：ブランドニコッ淡路「アルテア」
20:30-21:00	ポスターFlash Talk / (座長) 大槻 雄士 (徳田医科大学)
	(座長) 名黒 功 (徳田大学)
21:00-24:00	懇親会 (ポスターディスプレイセッション第1部)：レゼプションホールB ホワイエ

プログラム 3月6日(月)

9:00-10:20	オーラルII「ベガ」 / (座長) 久保田義顕 (慶應義塾大学)
O3-1	セルロミン様糖による生体組織の空間コンテキスト解析
9:00	洲崎 悦生 (順天堂大学大学院医学研究科生化学・生体システム医学 / 日本癌学会)
O3-2	エンゼル受容体の構造と機能
9:15	志雨谷 渉 (東京大学理学部生物科学専攻薬学研究室 / 日本生化学会)
O3-3	GATA2遺伝子コンパナーの異常による血液疾患発症機構
9:30	鈴木未来子 (東北大学大学院・医学系研究科ラジオアイソトープセンター / 日本生化学会)
O3-4	新たな骨の幹細胞の発見 ～組織幹細胞からがん幹細胞への肥性形質転換～
9:45	松下 祐樹 (長崎大学・大学院医学総合研究科細胞生化学分野 / 日本骨代謝学会)
O3-5	免疫調節メカニズムの最新動向
10:00	塚崎 雅之 (東京大学大学院 医学系研究科 免疫学新領域 / 日本骨代謝学会)
10:20-10:30	コーヒーブレーク
10:30-11:50	オーラルIII「アルファエラツ」 / (座長) 名黒 功 (東京大学)
O4-1	ヒト免疫学に基づいた肝臓癌病態の解明と新規診断・治療法の開発への応用
10:30	由雄 祥代 (国立国際医療研究センター 肝臓病研究部 / 日本消化器病学会)
O4-2	中枢神経系疾患における免疫細胞の解析
10:45	伊藤美菜子 (九州大学・生体制御医学研究所・アルルギー・アレルギー分野 / 日本免疫学会)
O4-3	脳内のグリア細胞によるシナプス制御機構の研究
11:00	小山 隆太 (東京大学・大学院薬学系研究科・薬品作用学教室 / 日本薬理学会)
O4-4	視覚運動間を担う神経回路と予測符号化
11:15	小坂田文隆 (名古屋大学・大学院薬学系研究科 細胞薬効解析学分野 / 日本薬理学会)
O4-5	細胞内シグナル伝達経路の発見とその破壊を原因とする神経・筋疾患
11:30	藤原 悠紀 (大阪大学 大学院 運動小児発達学研究所・国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 / 日本神経学会)
11:50-12:00	記念写真
12:00-14:00	夕食&ポスターディスプレイセッション第2部 (奇数番号：13:00-13:30、偶数番号：13:30-14:00)
14:10-15:30	オーラルIV「シリウス」 / (座長) 岩永 史朗 (大阪大学)
O5-1	宿主生理機能に影響する腸内細菌叢の同定と病態制御に向けた応用
14:10	田之上 大 (慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室 / 日本免疫学会)
O5-2	寄生虫による型別尿原陽陽陽メカニズム～衛生仮説の科学的証明へ向けて～
14:25	下川 周子 (国立感染症研究所・寄生虫動物部 / 日本寄生虫学会)
O5-3	腸内細菌代謝物による小腸ホメオスタシス破綻に起因する腸管外病変
14:40	筋野 智久 (慶應義塾大学 医学部 内視鏡センター / 日本消化器病学会)
O5-4	炎症性腸疾患における腸内細菌叢由来リリリン脂質による病原性Th1細胞の誘導
14:55	香山 尚子 (大阪大学 高等共創研究院(兼任)大阪大学大学院 医学系研究科 免疫制御学 / 日本免疫学会)
O5-5	母乳由来プロバイオティクスによる炎症性腸疾患改善効果
15:10	倉原 琳 (徳川大学 医学部・自律機能生化学 / 日本生理学会)
15:30-15:45	コーヒーブレイク / 優秀賞投票・集計 / アンケート記入
※オーラルIII, IV, Vとポスターより優秀演題を選出、投票	
15:45-16:00	表彰式および閉会式 / 司会：西城 忍

P-01	哺乳類細胞の浸透圧ストレス応答機構 名黒 功 (東京大学大学院薬学系研究科・細胞情報学教室 / 日本生化学会)	31
P-02	寄生虫の代謝と創薬 稲岡健ダニエル (長崎大学・熱帯医学研究所・分子感染ダイナミクス解析分野 / 日本寄生虫学会)	32
P-03	Genome-wide functional screening of drug-resistance genes in <i>Plasmodium falciparum</i> 岩永 史朗 (大阪大学・発生動物研究所・分子寄生虫学分野 / 日本寄生虫学会)	33
P-04	HYBD)によるヒアルロン酸代謝と恒常性維持・破綻 下田 将之 (東京慈恵会医科大学・病理学講座 / 日本病理学会)	34
P-05	骨髄部新規血管内皮サブタイプの同定とその特性 久保田義顕 (慶應義塾大学医学部解剖学教室 / 日本解剖学会)	35
P-06	うつ病の新たな治療戦略 近藤 誠 (大阪公立大学大学院医学部研究科 脳神経機能形態学 / 日本精神学会)	36
P-07	栄養素代謝経路および食品成分による腸脳相連機能制御機構の解析 後藤 剛 (京都大学 大学院農学研究科 / 日本栄養・食糧学会)	37
P-08	制御性T細胞を標的とした新たながん免疫療法の展望 前田 優香 (国立がん研究センター・研究部・腫瘍免疫研究分野 / 日本癌学会)	38
P-09	新生プロテオームダイナミクス 今見 考志 (理化学研究所・生命医科学研究センター / 日本生化学会)	39
P-10	神経節下で生じる多層的なホモオクスチン酸様物質の解明とその修復ストラテジーの創出 糸数 隆秀 (大阪大学大学院 医学系研究科 創薬神経科学共同研究講座 / 分子神経科学講座 / 日本精神学会)	40
P-11	ヒト体内組織の微環境素環境がガンジグワ属の病原性に与える影響について 篠原 孝幸 (国立感染症研究所・真菌部・第一室 / 日本医真菌学会)	41
P-12	インフルエンザに合併する細菌性肺炎の重症化分子機構 住友 倫子 (徳島大学 大学院医療薬学研究所 口腔微生物学分野 / 日本細菌学会)	42
P-13	タンニ酸介在Pニヤウイルスの研究とエンケリクス感染症の検見 松野 啓太 (北海道大学・人獣共通感染症国際共同研究所・危険分子・対応部門 / 日本ウイルス学会)	43

P-14	病原体認識と排除の分子機構 西城 忍 (千葉大学・基礎医学研究センター・感染免疫学分野 / 日本免疫学会)	44
P-15	In vivo エレクトロポレーションを用いたマウス脳腫瘍モデルの構築 大西 伸幸 (昭和大学・臨床薬理研究所・臨床腫瘍学診断学部門 / 日本癌学会)	45
P-16	骨外軟組織に発現する破骨細胞様細胞の腫瘍増殖への関与 竹井悠一郎 (滋賀県立大学・健康栄養学部・健康栄養学研究室 / 日本栄養・食糧学会)	46
P-17	タンパク質Sホルミド化によるNLRP3インフラマソーム活性化の調節機構 張 田力 (熊本大学・生命科学部・発生生物学講座 / 日本細菌学会)	47
P-18	コヒーレンス遺伝子変異による白血病発症の分子機構 越智陽太郎 (京都大学大学院 医学研究科 腫瘍生物学講座 / 日本癌学会)	48
P-19	食食・食細胞成熟の分子機構と細胞間コミュニケーション 津久井久美子 (国立感染症研究所・寄生虫動物部 第一室 / 日本寄生虫学会)	49
P-20	幹線因子c-Metが引き起こす腎臓癌管状構造ポスターの発現減少による各種栄養素再吸収不受と、それに応じた関連疾患改善の可能性 藤野 三法 (筑波大学 解剖学発生学研究室 / 日本解剖学会)	50
P-21	病原真菌 <i>Candida glabrata</i> のマイトフアンジー機構とその役割 名木 稔 (国立感染症研究所・真菌部/薬耐性研究センター / 日本医真菌学会)	51
P-22	舌と脳におけるナトリウム感知の分子メカニズムと疾患への関与 野村 憲吾 (京都府立医科大学細胞生理学 / 日本生理学学会)	52
P-23	胎盤性慢性炎症と胎児神経変性疾患と共通した分子機構解明ヒト胎盤を用いた研究デザインの提唱 陸 雄一 (愛知医科大学加齢神経科学研究所、名古屋大学神経内科 / 日本神経病理学会)	53
P-24	唾液中ホモオクスチンにおけるiG4の役割 林 慶和 (福岡県立大学・機能脳科学分野 / 日本精神学会)	54
P-25	開口放出前体分子SNAP23によるインスリン分泌調節機構の解明と新規分泌促進剤の効果的検討 國井 政孝 (大阪大学大学院 医学部研究科・細胞発生学 / 日本精神学会)	55
P-26	がん細胞における酸化ストレスのホモオクスチンとその打破 大槻 雄士 (熊本医科大学 総合医科学研究科 / 日本癌学会)	56

一般社団法人日本医学連合 加盟学会 (部会)

基礎部会 (15)		臨床内科部会 (61)		臨床外科部会 (46)	
1	日本解剖学会	8	日本腫瘍学会	24	日本整形外科学会
2	日本生理学会	15	日本風気腫瘍物理医学会	25	日本産科婦人科学会
3	日本生化学会	16	日本内科学会	26	日本産科婦人科学会
4	日本薬理学会	17	日本小児科学会	27	日本産科婦人科学会
5	日本病理学会	18	日本小児科救急学会	28	日本耳鼻咽喉科学会
6	日本薬理学会	19	日本感染症学会	29	日本皮膚科学会
7	日本癌学会	20	日本結核・非結核性抗酸菌感染症学会	30	日本泌尿器科学会
8	日本腫瘍学会	21	日本消化器病学会	31	日本口腔科学会
9	日本衛生学公学会	22	日本循環器学会	41	日本気管食道科学会
10	日本衛生学公学会	23	日本精神神経学会	45	日本産科婦人科学会
11	日本栄養・食糧学会	32	日本医学放射線学会	46	日本産科婦人科学会
14	日本ウィルス学会	35	日本ヘルペスウイルス学会	47	日本産科婦人科学会
44	日本皮膚病学会	42	日本化学療法学会	56	日本小児外科科学会
49	日本皮膚科学会	43	日本輸血・細胞治療学会	60	日本形成外科科学会
55	日本皮膚科学会	48	日本輸血・細胞治療学会	63	日本形成外科科学会
69	日本皮膚科学会	51	日本神経学会	65	日本形成外科科学会
96	日本皮膚科学会	53	日本老年医学会	66	日本泌尿器科学会
137	日本腎臓学会	54	日本老年医学会	68	日本泌尿器科学会
		57	日本呼吸器学会	70	日本泌尿器科学会
		58	日本腎臓学会	73	日本泌尿器科学会
		59	日本リウマチ学会	74	日本泌尿器科学会
		61	日本先天気管学会	78	日本泌尿器科学会
		62	日本腎臓学会	79	日本泌尿器科学会
		64	日本腎臓学会	81	日本泌尿器科学会
		67	日本腎臓学会	84	日本泌尿器科学会
		71	日本泌尿器学会	89	日本泌尿器科学会
		72	日本泌尿器学会	93	日本泌尿器科学会
		75	日本泌尿器学会	101	日本泌尿器科学会
		77	日本泌尿器学会	102	日本泌尿器科学会
		82	日本泌尿器学会	105	日本泌尿器科学会
		83	日本泌尿器学会	106	日本泌尿器科学会
		85	日本泌尿器学会	108	日本泌尿器科学会
		86	日本泌尿器学会	110	日本泌尿器科学会
		87	日本泌尿器学会	111	日本泌尿器科学会
		88	日本泌尿器学会	114	日本泌尿器科学会
		94	日本泌尿器学会	115	日本泌尿器科学会
		95	日本泌尿器学会	119	日本泌尿器科学会
		96	日本泌尿器学会	120	日本泌尿器科学会
		98	日本泌尿器学会	122	日本泌尿器科学会
		99	日本泌尿器学会	128	日本泌尿器科学会
		100	日本泌尿器学会	129	日本泌尿器科学会
		103	日本泌尿器学会	130	日本泌尿器科学会
		104	日本泌尿器学会	136	日本泌尿器科学会
		107	日本泌尿器学会	138	日本泌尿器科学会
		109	日本泌尿器学会	139	日本泌尿器科学会
		112	日本泌尿器学会	141	日本泌尿器科学会
		113	日本泌尿器学会		
		116	日本泌尿器学会		
		118	日本泌尿器学会		
		121	日本泌尿器学会		
		125	日本泌尿器学会		
		126	日本泌尿器学会		
		127	日本泌尿器学会		
		131	日本泌尿器学会		
		132	日本泌尿器学会		
		134	日本泌尿器学会		
		135	日本泌尿器学会		
		140	日本泌尿器学会		

第22回日本医学連合
「Rising Star」リポート

企画委員：飯野 正光 (東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構)
野崎 智義 (東京大学大学院医学系研究科 生物医化学分野)
岡部 繁男 (東京大学大学院医学系研究科 神経細胞生物学分野)
中山 和久 (京都大学大学院薬学系研究科 生体情報科学分野)
藤田 直也 (公益財団法人がん研究会 がん化学療法センター)
高岡 寛教 (北海道大学 遺伝子制御研究所 分子生体防御分野)
久保田義顕 (慶義義塾大学医学部 解剖学教室)
名黒 功 (東京大学大学院薬学系研究科 細胞情報学教室)
大槻 雄士 (藤田医科大学 総合医学研究センター 分子昆虫学分野)
若水 史朗 (大阪大学微生物病研究所 難治感染症対策研究センター 分子昆虫学分野)
西成 忍 (千葉大学真蹟医学研究センター 真蹟症研究部門)

主 催：一般社団法人日本医学連合
〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目28-8 日内会館8F
TEL:03-6240-0405 F.AX:03-6240-0406

10. リトリート優秀賞 表彰状



表彰状

第2回日本医学会連合 Rising Star リトリート優秀賞

<演題タイトル>

<所属>

<氏名> 殿

貴殿の発表は第2回日本医学会連合 Rising Star リトリートにおいて優秀賞に選ばれました

その栄誉をたたえ今後の研究のさらなる発展を
祈念してここに表彰します

令和5年3月6日

一般社団法人日本医学会連合
会長 門田 守人